



## 全校授業研究会 中学部

### 中学部3年 生活単元学習 ピザ7 オープン！～中学部を招待～

#### <「わかはとシステム」による授業づくり>

9月12日、中学部3年の提示授業によって全校授業研究会を開催しました。生徒の夢や願いが記された「私の応援計画」をどのように授業に反映し、ねらいや活動内容をどのように設定するか、検討を重ねながら授業づくりをしました。授業研究会では生徒一人一人の行動や言動から、どのような学びがあったのか「わかはとモデル」の視点を通して見取り、授業改善につながる貴重な意見や提案が多く挙げられました。



#### ○生徒との面談、保護者との面談による、「夢や願い」の聞き取り・見取り



・自分たちで作ったピザを食べてほしい  
・お客さんに喜んでほしい。



自分の気持ちを伝えられるようになってほしい  
相手の気持ちを考えられるようになってほしい。



生徒が夢や願いを叶えるために  
どのような力が必要？

教師が子どもに願う姿

わかはとモデルの視点

私の応援計画	
学年(年齢)	保護者名(仮名)
3年 男	
3年 女	

授業の生徒・保護者の生活に関する願い

【生徒】 異学年学習や調理を体験したい。作業で物作りが得意になりたい。	【保護者・保護者の願い】 本人の成長が少ない中でも、自分自身で活動できるようにしてほしい。 ・ふるまひの心が、言葉遣いなどを学んだ相手との好ましい関わり方を身につけてほしい。 ・様々な場面での関わりや、同年代の友達との交流が増えしてほしい。
-------------------------------------	--

#### ○「私の応援計画」の作成

	「生涯学習力」の広がりや深まりのモデル		
人とつながる	なかまといっしょに	人とつながりをもとう・広げようとしている	人とつながりを広げよう・深めようとしている
情報を集める	見てみよう・聞いてみようとしている	見て聞いて調べようとしている	経験を生かそうとしている
試す	やってみようとしている	考えて試してみようとしている	挑戦し続けようとしている
自分を知る	好きなことを知ろうとしている	いろいろな自分を知ろうとしている	なりたい自分を知ろうとしている

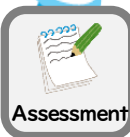
「生涯学習力」を広げたり深めたりするための基盤 【好奇心】【興味・関心】【夢中】

#### 【わかはとモデル～「生涯学習力」を見取る視点～】



#### 【大まかな単元構想(授業者)】

活動のゴールとして、接客を伴う「お店」を設定する。修学旅行や校外学習の場で、お店についての調べ学習を行い、自分たちのお店に取り入れられるものを試行錯誤しながら決定する。



#### つながりミーティング I

学部縦割りの構成メンバーによる単元検討

- ・ 修学旅行などで本物に触れる経験はとても効果的である。(卒業生の働くお店などもよいのでは)
- ・ 試食会や本番で、味の感想や接客の様子を評価される経験をする。また 評価されたことをフィードバックすることが重要である。



#### 単元計画の決定と授業者間の共有

これまでの経験や修学旅行等の場で見聞きしたことを基に、再度調べたり話し合ったりする活動を設定→自分たちのお店に必要なもの(こと)を決定し、実行する。その中で成果や新たな課題に気づき、よりよいお店となるように試行錯誤を重ねるような展開にしたい。



## お客さんに喜んでもらえる接客を目指して



### 【話し合いを充実させるために】

- ・少人数グループの設定やメンバーの調整。話し合うテーマの検討など。

### 【課題に気付くための手立て・仕掛け】

- ・お客役教師による質問「〇〇のときはどうするの？」
- ・実際場面を想定したロールプレイの導入。また、互いにお客役として、気付いたことを述べ合う場面の設定（本時の授業にも反映）

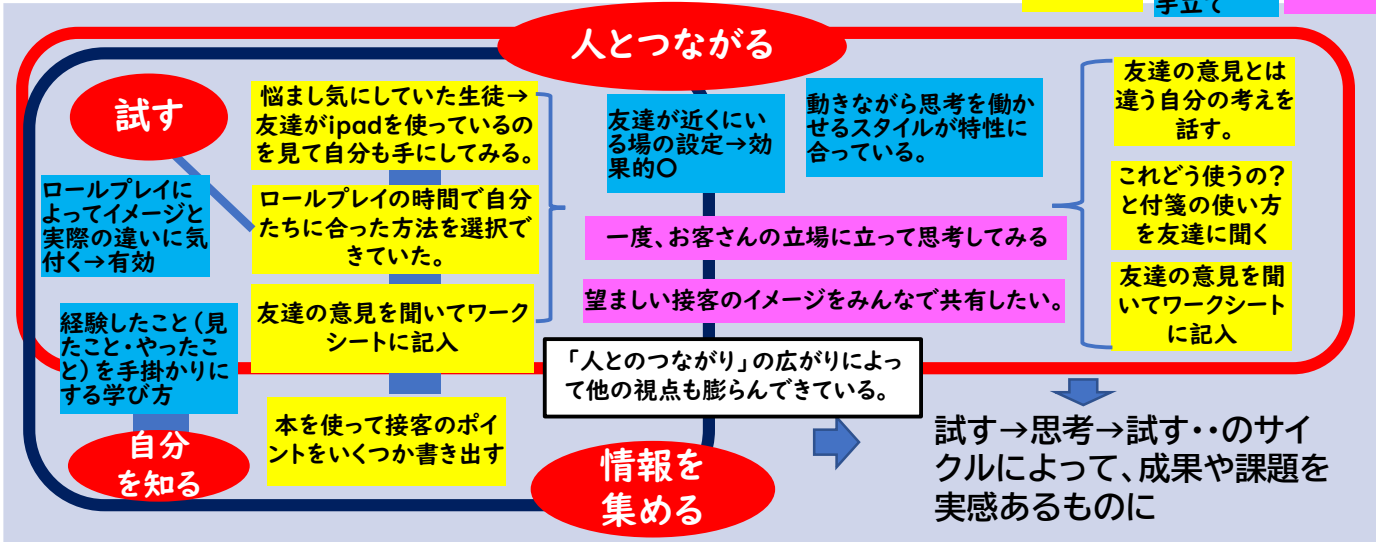
## 研究会 協議から

協議題 「生徒の姿から学びを見取る～わかはとモデルの分析と改善のために～」

生徒の姿

関連するわかはとモデルの要素や手立て

改善点



### 【協議で話題になったこと、改善点】

- ・これまでの経験そのものが、情報として活用されている。または、経験を基にして新たな情報を得ようとしている生徒もいる。→ステップアップを図るとすれば、「新しいことを知りたい」という気持ちが生涯学習力につながる。
- ・個々に考えたこと、友達と話し合ったことをロールプレイによって試した結果、よかったかどうか、生徒にとっては分かりづらかったかもしれない。→自分たちの目指す接客像（お客さんが喜ぶ接客）の共有が大切。また、自分たちで評価するための基準、お客さん役の先生による評価などがあるのもよい。

## 研究協力者の先生から

### <秋田大学准教授 谷村佳則先生>

- ・前時に接客練習をした生徒たちがつかんだ課題に取り組む授業である。このことから、本時のめあて「お客さんに喜んでもらう接客とは？」よりは「お客さんに喜んでもらえるように接客の課題を解決しよう」の方が、その後の話し合いも促進されたのではないかと。
- ・各活動が淡々と進んでいった印象だが、ゆっくり考えて答えを出す子どもたちという見方もできる。対話力もあるように感じた。もう少し自己主張できるような設定を検討してほしい。
- ・(指導案について)わかはとモデルの視点を各項目にリンクさせて記載させてはどうか。例えば、指導計画の表に、【学習活動】【主なねらい】と併せて【子どもを見取る視点】という欄を設けるなど。

### <総合教育センター 指導主事 島津憲司先生>

- ・わかはとモデルにもある視点「人とつながる」について～ 中学部段階になると地域とのつながりなども大切になる。関わる相手の広がりに合わせて「わかはとモデル」を見ていけると、単元や授業の大切なポイントを押さえられると感じた。
- ・この日の活動は「『一人で考える→グループで話し合う→ロールプレイで試す』の流れだったが、逆で行うとどうだったか。実際に動き、互いに見合っている状況で、話し合いや個人の思考は促進されたのではないかと。
- ・「私の応援計画」の基となる『ゆめシート』と絡めながら授業づくりをすれば、目指すお店像や自分たちの姿を掲示したり、共有したりしつつ課題を投げかけるやり方もある。そうすると「お客さんに喜んでもらうには？」とは違う発問やめあての設定となるかもしれない。